

令和5年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校)

目指す学校像 校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校

重点目標	全日制とほとんど変わらない通信制の特長を生かし、「顔晴れ(がんばれ)」を合言葉に、「学び直し」ができる学校づくり
	①求める生徒像を明確にし、定員確保に向けた募集活動を行う
	②情報を共有し、組織として統一した生徒指導を実践するとともに、進路実現のために人格の完成を目指す ③生徒一人一人の学力向上をはかり、専門性を高める教育活動を推進する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

年度目標 令和5年6月8日		年度評価 令和5年12月に実施		学校関係者評価		
番号	現状と課題(昨年度の評価から)	P(具体的方策)及びD(実行)	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	
1	<p>生徒募集</p> <p>○本校は広域の通信制高等学校ではあるが、実際には本校への入学者は埼玉県と東京都に限定されている。さらに、通学区域を考えると、中学校の生徒数が少ない、また少子化の状態が著しい地域と言うことができる。加えて近隣に多種多様な教育課程や特徴を持った通信制高等学校が設立され、募集活動において定員を充足させることは容易ではない。今年度入学者は福祉科24名、普通科26名の合計50名で、定員80名に対して62.5%と厳しい数字となった。昨年、一昨年と定員割れが続いており、打開策が急務である。全教職員で中学校訪問を行ったり、学校ブログ「大川学園高校NOW!」を毎日更新したりして、努力している。</p> <p>◎これらの現状を踏まえ、地域に根ざした学校づくりを進めていくと同時に、募集域の拡大、中学校や塾訪問等の回数を増やすなど、今までとは違った方法も考える必要がある。コロナ禍で制限のあった学園祭の復活や「学び直し」の充実など、中学生が興味ある活動を行っていくとともに、ホームページ等WEB関係の充実も図る必要がある。また、数年前に立ち上げた「出前授業促進プロジェクト」について、福祉関係の授業を中心に一層強化する必要がある。</p>	<p>①求める生徒像を明確にし、それに即した生徒の獲得に向けた方策を確立させる。 ②埼玉県福祉研究発表会等に参加し、その結果実績をもとに、福祉科のよさをアピールする。 ③飯能市の中高連携事業である出前授業に福祉科を中心に参加し、市内生徒入学者50%以上の増加を目指す。 ④コロナ禍で中止・縮小等を余儀なくされた学園祭やボランティア活動などを活発に行い、本校の活動をアピールする。 ⑤飯能新緑ソーデーマーチへ生徒全員で参加し、地域に根ざした活動を行う。 ⑥中学校訪問等の回数を増やすとともに募集域の拡大に努め、中学校訪問集中日を設け全教職員で取り組む。 ⑦ホームページ等WEB関係の充実を図る。 ⑧学校ブログ「大川学園高校NOW!」の更新に努める。 ⑨年間で13回の学校説明会に加え、10回の放課後相談会、6回の個別相談会を実施し、さらに外部団体の学校説明会に10回以上参加する。</p>	<p>①多様な生徒を求める形となった。2/4現在で、定員の48.8%しか満たしていない。 ②埼玉県福祉研究発表会で優良賞を獲得した。 ③市内中学校出身の入学者は前年度6名から7名(1/16現在)で微増した。 ④新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学園祭や諸活動のアピールができた。 ⑤飯能新緑ソーデーマーチに生徒全員で参加し、活動をアピールした。 ⑥中学校訪問等の回数や募集域、中学校訪問集中日は例年通りだった。 ⑦ホームページを新しくした。WEB関係の新たな試みはなかった。 ⑧学校ブログ「大川学園高校NOW!」は毎日更新した。 ⑨年間で13回の学校説明会、10回の放課後相談会、6回の個別相談会を実施し、10回以上の外部団体の説明会に参加した。</p>	C	<p>・私立高等学校の生命線とも言える募集活動が最大の課題である。 ・現在のカリキュラムや広域通信制の在り方について検討を開始している。 ・埼玉県内唯一の私立福祉科として活動し、一層アピールしていきたい。 ・今後、諸活動を新型コロナ前の状態に戻し、学園祭などの活動を活発に実施していく。 ・ホームページの有効な広報活動を考えていく必要がある。 ・学校説明会や外部相談会などの活動や運営方法など見直ししていく必要がある。 ・募集活動全般にわたり、スクラップ&ビルドの姿勢で臨むなど最重要課題に位置づける。</p>	<p>実施日 令和6年2月実施予定 学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>・花桐祭、学園祭は良かった。多くの人を集めて開催すべきである。市を通じて情報を提供する方法もある。 ・ホームページの工夫が必要である。具体的には、学校ブログのアクセス数をカウントしたり、ホームページへの誘導を工夫したりするなどである。 ・内の充実という考え方は良い。 ・どのように学校外の人々に見てもらえるかを考える必要がある。 ・SNSを活用した方が良い。 ・中学校の教員に授業を見てもらうことで、生徒に進路指導がしやすくなる。他の通信制高等学校はどのように生徒募集を成功させている。</p>
2	<p>生徒指導と進路指導</p> <p>○年間を通して厳しくも温かい生徒指導が行われている。生徒の服装・頭髪を指導するだけでなく、体調や心理状態の把握にも努めている。これにより、問題行動や不登校等を未然に防止している。また登下校指導も行っている。さらに、チャイム着席や整然とした授業により、学業や卒業に対する意識を高め、中途退学者を減少させている。対人暴力や器物損壊などの暴力的な問題行動はほぼ皆無であり、安心安全な学校が定着している。教員による休み時間や授業中の巡回が年間を通して行われている。生徒が教員に対して相談を行いやすいような教育環境が整ってきている。「時間厳守・話を聞く・指導を素直に受け入れる」、という本校の生徒指導の基本があらゆる教育機会実践されている。また、生徒の服装等の身だしなみについても力を入れている。進路指導は、進路決定率ばかりでなく、生徒に本当に合った進路があるか、という進路適性率を高めていく必要がある。</p> <p>◎今後も引き続き粘り強く生徒指導を徹底していく必要がある。問題行動を起こさない、また起きないような環境を作り出す積極的な生徒指導が必要である。本年度はコロナの影響で中止していた「第1学年宿泊研修」を実施できたが、生徒の健康管理については細心の注意を引き続き払っていく必要がある。進路指導においては、3年間を見据えた計画的な進路指導を進めると共に、就職希望者に対しての高卒求人の新規開拓も必要である。</p>	<p>①校内巡回を徹底し、チャイム着席100%を目指す。 ②引き続き集会等で「生徒部長より」の講話を行うことで、全校一致の生徒指導体制を確立し、昨年度11件だった生徒指導案件を50%減少させる。 ③登下校指導を行い、学校外での生徒の行動を一層改善していくと共に昨年度688人(延べ人数)だった遅刻者を50%減少させる。 ④課題をかかえた生徒に対して、手厚い指導・支援を継続していき、1名だった退学者を0名にする。 ⑤情報の共有を図り、問題行動を未然に防ぐ生徒指導を行っていく。 ⑥各学年ごとに計画的な進路指導計画を策定し、3年間を見据えた進路指導を行う。 ⑦進路決定率100%を目指すとともに、進路満足度100%を目指す。 ⑧今年度525件だった就職者への求人情数の15%増をめざす。</p>	<p>①校内巡回の徹底とチャイム着席100%を目指したが、教職員達成率50%と昨年度の83%を大きく下回った。 ②集会等で生徒部長の講話を継続し、全校一致の生徒指導体制の確立を目指したが、昨年度11件だった生徒指導案件が1/26現在で11件と同数であった。 ③昨年度688人(延べ人数)だった遅刻者が817人となり、18.8%増加した。(1/26現在) ④冬季休業中に「なんでも相談窓口」を設けた。1名の参加者に手厚い指導・支援を行った。退学者は1/26現在昨年度同数の1名である。 ⑤生徒部を中心として登下校指導や授業内巡回を積極的に行った。 ⑥学年ごとに計画的な進路指導を実施した。 ⑦進路決定率は76.2%(1/16現在)で、進路満足度は89.9%だった。 ⑧就職求人情数は870件で65.7%増であった。</p>	B	<p>・全教職員が危機感を以って生徒指導にあたる。チャイム着席100%を目指し、日々指導にあたる。 ・引き続き集会等では生徒部長の講話を継続していき、全校一致の平等な生徒指導体制を確立する。 ・登下校指導は継続して行い、生徒の安全と共に遅刻者を減少させる。 ・計画的な進路指導を行い、進路決定率と共に進路満足度も100%を目指す。 ・求人情数のさらなる増加のため、積極的に進路指導部の活動を行う。</p>	<p>・生徒指導で学習方法を教える必要がある。特に毎回同じテストでは、過去の問題を集めることが学習方法になり、本当の意味で生徒を伸ばしていけない。将来、上級学校で通用する学習方法を指導してほしい。 ・生徒指導を徹底してほしい。すべての教員がすべての生徒に対して同じような姿勢で臨むべきである。不統一のため双方の保護者から苦情が出ている。 ・生徒同士は仲が良いように感ずる。 ・大切なことはメール配信にする。紙は、保護者に届かないケースが多い。 ・引き続き進路決定率100%を目指して、進路部は活動すべきである。</p>
3	<p>学習指導</p> <p>○本校生徒の実態を見ると基礎学力定着のため、中学校以前の学習から振り返る必要がある。授業は45分で設定されている。教員は主体的な授業や諸活動に結びつくように創意工夫をしているものの、受動的な授業になる傾向がある。一斉授業についていけない生徒が多いため、プラスワンの講座を設けているが、参加率が高くない。本校の生徒の実態から、個々への対応や基礎的なカリキュラム構成等、工夫している。大学進学を希望する生徒もいる。大学進学後、その専門的内容が理解できるように、高校生としての基礎的な学力をつけることは本校の責務である。また、一般受験を経て進学する生徒に対応できるようなプラスワン講座やカリキュラムも当然必要になってくる。</p> <p>◎中学校以前の学習を振り返る生徒と大学進学等上級学校進学を目指す生徒が同じ教室の中で学ぶ中で、生徒一人一人の実態に合った学習指導を実践していかなければならない。そのために、現在行われているステップアップ講座や地域との伝統行事継承のための諸活動も生徒の人間性を育てる活動となると考える。また、体育祭などの諸活動も生徒主体で行うことで、自主性を大切にしたい教育活動になる。</p>	<p>①学び直しが必要な生徒に合ったカリキュラムを継続し、普通科においては75単位の修得を維持する。 ②一斉授業についていけない生徒のためにステップアップ講座参加者を30%増加させる。 ③大学進学を希望する生徒に対応する進学講座の開設準備をする。(現在の本校の教育課程に含まれない科目の学習) ④補習体制を充実させ、進級卒業をさせる教育体制を整える。 ⑤大学への一般受験者が0名であったが、5名を目指す。 ⑥福祉科の介護技術コンテストで、全国大会出場を目指す。 ⑦市内伝統行事への参加及び参加者数をコロナ前に戻す。 ⑧SDM、学生ボランティア、ミュージカル等のコラボ授業により、生徒の学習活動を継続的に活性化させる。</p>	<p>①普通科75単位の修得を維持し、学び直しが必要な生徒に合ったカリキュラムを継続した。 ②月曜日の放課後に実施しているステップアップ講座参加者は31.3%増だった。 ③大学進学希望者に対し、朝の補習が行われた。 ④進級・卒業させるための教育体制・補習体制を構築できた。 ⑤大学の一般受験者は1名であった。 ⑥福祉科介護技術コンテストは、研究部門・介護技術部門とも優良賞だった。 ⑦飯能夏・秋祭りなど、行事に積極的に参加した。 ⑧ボランティア活動は上記⑦のように活発に行われた。SDM、ミュージカルの授業成果も慶應義塾大学大学院(2/19発表予定)や花桐祭で発表されている。また、第17回輝け！飯能プランニングコンテストでは優秀賞を獲した。</p>	A	<p>・学び直しが必要な生徒に合ったカリキュラム、単位数を維持していく。 ・現在の補習体制を大学受験にも特化したものに再構築する。 ・進級・卒業させる補充体制を一層拡充する。 ・市内を中心としたボランティア活動に引き続き積極的に参加していく。 ・学園祭や芸術鑑賞会などのあり方を検討していく。</p>	<p>・全日型の通信制というのは中途半端であり、専門的な学びがほしい。 ・授業改善には終りが無い。授業の改革が必要。教員同士が年に1回は授業公開し合って、お互いに学ぶべきである。 ・楽しく力になる授業、夢中になれる授業を日々研修する必要がある。 ・他の通信制高校では、中学校の教員に授業を見学してもらい、その学校に合った生徒をイメージしてもらっている。 ・ipadの授業やその使い方を学ぶ授業を行うべきである。</p>